

『天御中主神示集』

～ JDR 神示集 ～

【あとがき】

「光ある時に光の内を歩め」という言葉は、聖書の中に出てくる言葉であり、神の御言葉が「光」として直接に地上に降りている時期に、神の御言葉と共に人生を全うしなさい、という意味であります。

まさしく、神の直接的なる御言葉と共に生きるということは、人間にとって、最高、最大、最深の喜びの瞬間であり、栄光の瞬間であります。神示にありますとおり、その喜びや栄光というものは、数百年、数千年、永遠に近い時の流れの中で、続いてゆくものであります。

この奇蹟の時代に、神の御言葉と共に生きるのと、それから離れて、ただ生きるのとでは、何千倍もの違いが出てまいります。イエス・キリスト出生時に地上に生きた方は数多くいらっしゃるでしょうが、その中で、神の御言葉と共に歩むという喜びと栄光にあずかった方は、ほんの一握りの方々です。

多くの方は、その時がまさしく「光ある時」であるという偉大なる真実に気がつかれないまま生きてしまったのであります。そのことは、地上を去られた後、悔やんでも悔やみきれない魂の悔恨となって残られたことでしょう。

今、この日本に、確かに、幽の幽なる日本の根本神であられる天御中主神の御言葉が直接的に天降っているのです。まさしく、今こそが、「光ある時」であるのです。「光ある時」に生きる人間の使命とは、「光の内を歩む」ということに尽きます。

日本の全国民に向けて、天御中主神から大号令がかかっております。「縁生の同志達よ、すべて集ってきなさい。」と訴えかけられています。

「光」は、皆様方お一人お一人に訴えかけます。皆様方の内の内なる「光」に向けて訴えかけられています。こうした天御中主神の御言葉は、まさしく、「あなた」自身に、一対一で投げかけられているのです。

どうか、皆様方が、内なる本来の使命に目覚められて、JDRの使徒会員になられ、御活躍されることを願って止みません。

この書の本文は、JDRの会員に贈られた半年間のメッセージを集めたものであります。どうか、これから共に、神の御言葉と共に生きてまいりましょう。